

会 議 録

会 議 の 名 称	令和５年度第２回藤井寺市環境保全審議会
開 催 日 時	令和６年３月２１日（木） １４時００分から１５時３５分まで
開 催 場 所	藤井寺市役所８階８０１会議室
出 席 者	鯉坂委員、高島委員、山田委員、藤井委員、大原委員、南委員、常元委員
会 議 の 議 題	１ 開会 ２ 資料確認 ３ 議題 （１）藤井寺市の地球温暖化対策に関するアンケート調査結果報告（速報） （２）地域特性調査結果報告 （３）温室効果ガス排出量調査結果報告 （４）再生可能エネルギー導入実績及び導入ポテンシャル調査結果 （５）その他 ４ 閉会
配 布 資 料	・ 次第 ・ 審議会委員名簿 ・ 地球温暖化対策に関する市民アンケート調査結果報告書（速報） ・ 地球温暖化対策に関する事業者アンケート調査結果報告書（速報） ・ 地球温暖化対策に関する市民アンケート調査結果報告書（クロス集計結果） ・ 地域特性調査結果 ・ 温室効果ガス排出量調査結果 ・ 再生可能エネルギー導入実績及び導入ポテンシャル調査結果
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の確認方法	☐ 会議の議長の確認を得ている ☒ 会議の出席委員全員の確認を得ている
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍 聴 者 数	０人

令和5年度第2回藤井寺市環境保全審議会 議事要旨

日時：令和6年3月21日（木）

14：00～15：35

場所：藤井寺市役所8階801会議室

1 開会

2 委員紹介等

3 資料確認

4 議題

（1）藤井寺市の地球温暖化対策に関するアンケート調査結果報告（速報）

山田委員：藤井寺市が「ゼロカーボンシティ宣言」を行っているとのことだが、どのような内容なのか。数値目標等は設定されているのか。

事務局：令和5年第2回定例会において、2050年までに、藤井寺市における二酸化炭素の排出量実質ゼロをめざす「ゼロカーボンシティ宣言」を行っている。宣言の内容については、広報紙やホームページ等で周知を図ったところではあったが、アンケート調査結果を見ると、その認知度は非常に低くなっていることから、対応を今後検討していきたい。

鰐坂会長：督促状の郵送によって、市民アンケート調査の有効回収率が44%、事業者アンケート調査の有効回収率が36%に増加する見込みとの説明をいただいた。事業者アンケート調査の有効回収率がやや低いように感じるが、問題はないのか。

事務局：事業者アンケート調査についても、市民アンケート調査と同様に督促状の郵送を行ったものの、やや低くなっているのが実情である。

鰐坂会長：回答事業所の大部分が「従業員数9人以下」となっているが、これは藤井寺市の特徴になるのか。

事務局：その通りである。

鰐坂会長：回答事業所の従業員の年齢層は把握できるのか。

事務局：設問項目として設定していないため、把握することは困難である。

鰐坂会長：市民アンケート調査の居住地区別のクロス集計結果について、明確な傾向は把握できなかったとの説明をいただいたが、問7や問11では傾向が見られるように思うため、再度検討をお願いしたい。また、太陽光発電システムの導入にあたっての課題として、市民・事業者ともに「導入費用が高額である」の回答割合が最も高くなっていることから、何らかの対策を今後検討していく必要があるように思う。

山田委員：藤井寺市で、緑のカーテンに関する取組を行っていなかったか。

事務局：令和4年度まで、「グリーンカーテンコンテスト」を開催していたが、現在は実施

していない。

山田委員 : 藤井寺市がカーボンニュートラルの実現に向けて力を入れていくべき施策として、「緑化の推進」の回答割合が高くなっていることから、緑化に関する何らかの取組があれば良いと思う。

(2) 地域特性調査結果報告

南委員 : 人口の推移が整理されているが、年齢別の構成比等は把握することはできないのか。

事務局 : 人口の年齢別の構成比については、統計データで把握することは可能であることから、追加させていただく。

鰺坂会長 : アンケート調査結果を見ると、ごみの減量化やリサイクルに関する市民意識は高いように感じたが、1人1日当たりのごみ排出量は大阪府内で4番目に多く、リサイクル率は大阪府内で5番目に低くなっている。こういった現状を知らない市民や事業者が多いように思うため、情報発信を強化して、より一層の取組促進を図っていく必要がある。

山田委員 : ごみの区分として「生活系ごみ」があるが、これは市民が排出したごみという認識で問題ないか。

事務局 : その通りである。

山田委員 : 藤井寺市の1人1日当たりのごみ排出量が多くなっている要因は何かあるのか。

事務局 : 近隣の柏原市や羽曳野市と比較すると、生活系ごみが少なくなっている一方で、事業系ごみ及び集団回収量が多くなっていることが一因として挙げられる。

山田委員 : 藤井寺市が粗大ごみの無料回収を行っているため、近隣市からの粗大ごみの流入による影響もあるのではないか。

事務局 : 少なからず影響はあるように思うが、実態は把握できていない。

(3) 温室効果ガス排出量調査結果報告

鰺坂会長 : 2020年度に家庭部門の温室効果ガス排出量が増加に転じた一因として、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うテレワーク実施者の増加が考えられるとの説明をいただいた。その一方で、業務部門の温室効果ガス排出量がわずかな減少にとどまっていることから、温室効果ガス排出量の削減の観点からすると、テレワークの促進を図ることは有効ではないということになるのか。

事務局 : テレワークの促進を図ることによって、運輸部門の温室効果ガス排出量の削減にもつながるものの、各家庭でエアコン等を個々に使用するよりも、事業所に集まって使用する方が効率的であるように思う。

(4) 再生可能エネルギー導入実績及び導入ポテンシャル調査結果

山田委員 : 泉大津市の太陽光発電の面積当たり導入容量が大阪府内で圧倒的に多くなっているが、何か要因があるのか。

事務局 : 泉大津市については、大規模な太陽光発電の導入容量が多くなっていることが一

因として挙げられる。

鰺坂会長 : 太陽光発電の導入ポテンシャルを見ると、「戸建住宅等」が最も多くなっていることから、ここに注力していくことが有効であるという判断になるのか。

事務局 : その通りである。まずは、戸建住宅の屋根やカーポート等への太陽光発電の導入促進を図っていくことが有効であると考ええる。

(5) その他

事務局 : 本会議の議事要旨については、鰺坂会長に確認いただいた後に、市のホームページに公表する予定としている。また、次回の環境保全審議会については、7月の開催を予定しており、日程等については決まり次第連絡させていただく。

以上